

令和2年度第1回 宗像市文化財保存活用地域計画協議会

議事録要旨

日時：令和2年8月4日（火）

時間：10:00～12:00

場所：海の道むなかた館 講義室

出席者

委員：河上信行〔会長〕 伊崎俊秋〔副会長〕

高山國敏 立部瑞真 竹川克幸 田中久美子 本田藍 吉村一彦

石村陽子 江藤富男 山田久 鎌田隆徳、

オブザーバー：福岡県教育庁総務部文化財保護課参事補佐兼企画・埋蔵文化財係長 杉原敏之

事務局：宗像市市民協働環境部文化スポーツ担当部長 堤 一成

文化財課課長 石松 隆通

文化財課参事 白木英敏

文化財課主任技師 山田広幸

文化財課技師 田子森千子

会計年度任用職員 原 俊一

コンサルタント：(株)修復技術システム 石井宏幸、久保田貴紀

1. 開会挨拶

2. 前回議事録の確認

3. 審議

事務局説明

- ・地域計画作成スケジュール〔事前送付資料2〕
- ・当日配布資料3
- ・宗像市文化財保存活用地域計画（案）〔事前送付資料3〕：序章～第3章

会長：P5の「もの・こと・ばしょ・ひと」という4つの視点から歴史文化遺産を捉えるという図は非常に分りやすくなったと思う。

委員：P35は表記を統一するなら「近世」にした方が良いのではないか。P37の「近代」以降が箇条書きになっているのは、この後刊行される宗像市史〔近現代編〕を踏まえて追加するという事か。

事務局：自然関連の部分も市史を参考にしており、ここの記載についても参考にしたいと考えている。宗像四国霊場巡りは幕末から明治にかけて盛んに行なわれていたが、こ

れまでなかなか光が当たっていなかった。計画の構成に関わる部分があれば市史を参考に掲載したいと思う。

委員：旅人の紀行文などを見ると、名所だけではなく、正助廟に必ず寄っている。宗像市は非常に偉人や人物史の書籍が多く、計画の中に人の要素を入れたのは良かった。石碑も数多く残っており、活用を検討してはどうか。

生活文化に関し、私は鶏肉と卵の流通の研究をしているが、記録によると赤間では江戸時代から卵を流通させている。それが、かしわのすきやきに繋がるのかは分からないが、他地域よりは鶏肉を多く食べている。ほかにはない文化なので、そういった視点を生活文化の中に入れて非常に宗像の特色が出るのではないか。

委員：文化財として残すものは色々あると思うが、海女をやっているの海の文化に関心がある。現役を引退された海女の方が亡くなったり、話が聞けなくなったりしているので、個人的にはインタビュー集を残したいと思う。

会長：今後の措置に映像や聞き取りを検討して頂きたい。

副会長：第2章 宗像市の歴史文化遺産、第3章 宗像市の歴史文化の章立ては、一般的に保存活用地域計画の中ではこの流れなのか。「歴史文化遺産」と「歴史文化」は近い言葉なので、計画構成も含めて再度検討頂きたい。

事務局：用語の定義については国とも協議しながら、検討したいと思う。構成についても分かりやすい流れになるよう検討したい。

会長：第3章の2～4は文字だけなのか。重複する文言があるように思う。図を提示すると第1章、第2章のまとめになりかねない。例えば「赤間宿のまちなみ」「唐津街道」というのは第2章では出て来ない。図をどのように入れるかを叩き台として出して検討しないとイケない。文字だけでは混乱すると思う。また、概要版は作るのか。

事務局：認定後、10 ページ程にまとめた概要版を作る。

会長：全部英語にするのは大変だろうが、「歴史文化遺産」をどう訳したら良いのか考えてみたらどうか。全体的に図が多くて良いと思うが、図の中の文字が小さくて見づらい。唐津街道と旧道のような歴史と地理は分けるのか、または、一緒に扱うのか。大宰府と博多との旧道を含めた関連も入れるべきかと思うが、そうすると、盛り沢山になりすぎるかもしれない。遺跡の分布と地形の関係の図は工夫してもらいたい。P44 図は現在の交通網と文化財を載せているが、地形、街道、山、川との関係で検討してもらいたいと思う。

委員：海女の聞き取り調査はやっていて、岬地区コミュニティ・センターにビデオや漁業史、書籍等の資料がある。再度調査して欲しい。

事務局説明

・宗像市文化財保存活用地域計画（案）[事前送付資料3]：第4章

事務局説明

- ・宗像市文化財保存活用地域計画（案）〔事前送付資料3〕：第5章～第6章
- ・歴史文化遺産の保存・活用に関する課題と方針〔事前送付資料4〕
- ・当日配布資料1、2

委員：市民アンケートの説明があつたが、全体の評価を教えてください。私見では宗像市民という限定されたアンケートで40%という回収率は低いと思う。「関心がない」「無回答」に対する扱いをどう考えるのか。P3の問4は「関心がない」「無回答」を合わせて5.4%（44名）と非常に高くなっている。そういった結果を踏まえ、宗像市民の歴史文化遺産についての興味や関心について事務局ではどう考えているのか。調査研究やアンケート結果を踏まえた上で、課題や推進体制を考えていくと受け止めている。第5章から第7章が計画の中で軸になってくると思う。

事務局：アンケート結果に関しては、更に分析する必要があると考えている。年齢や地域毎に分析したい。例えば、「関心がない」人がどういう地域に多いのか、歴史文化遺産が数多くある里山の市民の中にも「関心がない」人がいるのか、団地に住んでいる市民に多いのかなど、一度多様な視点で分析を行い今後の取り組みに活かしたい。

委員：無回答というのは潜在的に関心が低い方が多いのではないかと。アンケートを送ったが無回答だったという結果も、分析の検討要因として挙げても良いのではないかと。

委員：第2章のP38-39に、前回の協議会でお願ひした宗像の文献についてまとめたものが入っており、事前送付資料4でも「活用7 郷土関係文献・刊行物等の公開」が入っている。歴史学の世界では、郷土史や戦前の文献は皇国史観の関係で忌避されてきた。一番危機的なのは郷土史家の方達が絶えつつある事。個人の財産になった時に、家族は価値が無いと思ってゴミとして捨てている。災害やコロナ禍のような緊急時には、歴史は生活と関係ないと抹消される。宗像市は古代から近代・現代まで連続性があり歴史の蓄積がある。家庭や公民館等、地域にはまだ歴史資料があるのではないかと。活用に関しては行政が中心になっているが、専門家や所有者や地域団体全体で宗像の歴史文化遺産の啓発をする取り組みを始めて欲しい。最近ではテレビ局の歴史番組から問い合わせが来るが、図書館には歴史の専門家がいなくて古文書が読めず答えられない。地元の文化財関係の方も考古学専門なので分からず、そういった事から価値が無い、自分達の生活とは関係ないと思うのではないだろうか。市町村合併以降の資料の流れが断絶しているので行政の方で確認してもらいたい。SDGs未来都市に宗像市が認定されているが、文化財の範疇でSDGsの考え方を計画の中に入れる事を考えているか。

事務局：宗像市総合計画の後期計画が今年度からスタートしているが、その中には項目立てで入っている。第二次環境基本計画にもそういった観点で入っている。

会長：アルバムや古写真、絵葉書は建造物の復原にとっても役立っている。絵馬もとても貴重な資料。日露戦争の凱旋門が全国で浜松市と始良市に2基残っているという新聞

報道があったが、凱旋門の絵葉書はたくさんあり懐かしい思い出。

委員：計画を策定する際に一番力になるのは歴史文化に関わっている市民団体なので、現在の団体数の把握が必要。この協議会にも5つの団体の代表の方々が参加されているので、情報交換の場として連絡会を立ち上げてもらいたいと思う。

委員：第1章 P37、第3章 P49 で歴史文化が分類され記載があり、第4章 P51-52 でストーリーに沿って物語を作っていくという事だが、読んでいて非常に混乱する。P51 では同じ括りで書かれていないところがあるので、この辺の整合性を図ると読みやすくなる。多くの市民の方にも読んでもらいたいという事なら、今後整理していった方が良い。アンケートの問6で、歴史文化遺産に関心がないのは「自分の生活に関係がないから」という回答が多いが、市民の方にどう関心を持ってもらうかは見せ方に係わる。大学で学生に身の回りの歴史遺産はどのようなものがあるか聞くと、自分で探して来るので情報も集まり、学生も関心を持つ。何かそういう仕掛けを考えてほしい。アンケート問11で「担い手（まつりや行事への参加など）に携わりたい」という回答が多かったのが意外だった。少子高齢化が進み、どこの祭りや行事も伝統的なものは参加者が減っているので、携わりたいという方を取り込んでいくシステムを構築出来るかが重要になってくる。

4. その他